

第51回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成28年6月30日（木） 14：00－15：30

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、中須賀委員、青木委員、松本委員、山川委員

(2) 政府側

松本内閣府副大臣（宇宙政策担当）

宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、佐伯審議官、高見参事官、松井参事官、末富参事官

文部科学省 堀内宇宙利用政策課長

宇宙航空研究開発機構 奥村理事長、常田理事（宇宙科学研究所長）

4. 議事要旨

(1) 中間取りまとめ（平成28年度）（案）について

冒頭、松本内閣府副大臣より挨拶があった後、事務局より、6月20日の宇宙政策委員会における議論等を踏まえた中間取りまとめ案について報告が行われた後、委員間で議論があった。

主な意見は以下の通り。

- ・ 宇宙2法の運用体制の構築は、これまで委員会で議論してきた様々な課題の解決にもつながる起爆剤となり得るものであり、しっかり体制整備をお願いしたい。
- ・ 宇宙産業ビジョンは、これから先の社会がどうなるか、宇宙分野はそれに対してどう貢献するのか、という点を是非議論して取り込んでほしい。
- ・ 宇宙分野の特性であるデュアルユース性については、防衛分野と産業分野のそれぞれの技術の交流というのも大事な視点である。世界では防衛で鍛えられて産業に波及するということが潮流である中、なぜ日本ではそれが起こらないのかを議論すべき。

(2) X線天文衛星「ひとみ」の異常事象について

文部科学省及び宇宙航空研究開発機構より説明が行われた後、委員間で議論があった。本件の今後の対応については、文部科学省や宇宙航空研究開発機構、宇宙科学コミュニティの意見も踏まえながら、宇宙科学・探査小委員会を中心に検討を進めていくこととなった。

主な意見は以下の通り。

- ・ プロジェクトマネジメント改革について、長期的には人材育成が重要である。
- ・ 外部からのチェック体制や文書化などは、コストの増加につながり、内部の現場力が弱まりかねないため、バランスが重要である。

- ・ 諸外国と比較してミッションコストがどうなっているか、日本が安いとすれば理由はどこにあるのか、良く分析する必要がある。
- ・ 迅速に対策をまとめたとことを評価する。ただし現場の科学者がこの対策の内容をよく理解し、必要性を実感しているか否かが大事であり、内部への説明にも努めて頂きたい。
- ・ X線科学は人材の層も厚く、重要な分野であるが、全体のプロジェクト見直しの議論では、小さな科学コミュニティの声もよく聞き、科学的観点から検討を進めて頂きたい。

以上